

教会学校 教案ガイド

教師メモやメッセージアウトラインを読む前に必ずディボーションをしましょう。

1. みことば

祈りながら今週のテキスト(聖書箇所)を何度も繰り返し読んでください。また、今週の暗唱聖句を決定して、覚えましょう。

2. 主題の読み取り

今週のみことばの中心テーマを自分のコトバで、1つの文章にまとめて書きあらわしましょう。

例 ○:イエスさまは、弟子たちがイエスさまを救い主と信じるように
カナで奇跡を行いました。(×:カナの婚礼と奇跡)

3. 教えられたこと

今週のみことばを通して、神さまがあなたに語ってくださったことを書きあらわしましょう。

4. メッセージの作成

◇「教師ノート」と「メッセージアウトライン」を参考にしてください。

◇注意深く聖霊さまの導きに従いましょう。

日本アッセンブリーズ・オブ・ゴッド教団 教会教育部

教会の働きのためにご自由にお使いください。営利目的での使用は禁じます。
すべての内容の著作権は、日本アッセンブリーズ・オブ・ゴッド教団教会教育部にあります。

教師ノート

週課	第三年 第八課 第一週
単元	基本的な教理・3
テーマ	洗礼の意味
タイトル	なぜ洗礼を受けるのでしょうか
テキスト	ローマ6:3-11
参照箇所	マタイ 28:18-20、使徒 2:37-41、ローマ 10:10、1ペテロ2:24、1ペテロ3:21、ローマ6:3-11、使徒 8:38
暗唱聖句(教会で使用している聖書訳を記入して下さい)	ローマ6:11 or マタイ28:19

AG 日曜学校教案参照箇所

□導入

洗礼式の大切さと素晴らしさを生徒たちに考えてもらえる導入を心がけましょう。「洗礼式を見たことある？」と質問をしても良いと思います。「洗礼式を見てどんな気持ちでした？」と聞いてもよいでしょう。導入で大切なことは、「クリスチャンにとって洗礼は素晴らしい」ということを印象づけることです。又洗礼式を見たことがない生徒に対しては、自分の洗礼式の写真を見せてもよいでしょう。そして教師自身の洗礼を受けた感動と恵みを語ることも子供たちに洗礼の素晴らしさを伝えることができます。

□ポイント1 洗礼は悪い自分のお葬式です

「私たちの心の中には、神様の願わないところ(罪)があります。罪はどんなに隠しても、隠し切れない、また自分で消そうとしても消すことができないものです。結論を言うならば、私たちは罪からは逃げられない、絶望状態なのです」。

- ☞ 生徒たちに自分の罪を認識させることは非常に大切です。罪の問題とその解決について真実に扱っているのがキリスト教の特徴です。ですから仮に他宗教の背景がある子供がいたとしても、罪の赦しのアプローチは、たいへん有効です。(前もって教師が罪の性質のリストを画用紙などに書いて作成してもよいでしょう。そして生徒たちに自分の問題として考えさせるのです)

「しかし父なる神様は私たちが罪から救うために、一人子イエス・キリストを送って下さいました。彼は私たちのすべての罪を身代わりとして背負い十字架で死んでくださったのです。イエス様を信じた人は、自分の罪に対して死んで葬られたのです(お葬式です)。洗礼はこの真理の象徴(シンボル)です。」

- ☞ イエス様の罪の赦しの素晴らしさを生徒たちに伝えましょう。それにはまず、教師自身が日々自分の罪を十字架につけ、赦しの体験をすることが大切です。教師の信仰の理解しか、子供たちに伝えることはできませんから、十字架の奥義を祈りつつ、神様に助けられて語らせていただきましょう。

□ポイント2 洗礼はイエス様といっしょによみがえる誕生日です

「イエス様は十字架にかかられた後、死と罪に打ち勝たれて、3日目によみがえられました。イエス様を信じて、霊的に一つになった私たちは、罪に対して死んだだけでなく、イエス様が復活されたように、新しい歩みをすることが出来るようになったのです。ですから洗礼は、新しく生まれる誕生日のようなものです。」

- ☞ 低学年の生徒には、「イエス様と一緒に生きたい人!？」と質問すれば素直に反応してくれます。しかし高学年になると、自分の嫌いなどころがあったり、自分を変えたい、何とかしたいと考えている生徒も多

いですから、「罪に死んでキリストによって生きる」ならば、自分ができないところも変えてくださる、というクリスチャン生活の聖めの部分を語ることも効果的です。

□ポイント3 洗礼を受けることはイエス様が望んでおられることです

救いは、究極的にはイエス様を信じるだけで与えられます。同時にイエス様は洗礼を受けるようにと語っておられます(マタイ28章19節の、大宣教命令の中でもイエス様は洗礼を命じられておられます)。イエス様も模範として洗礼を受けられ、弟子たちも洗礼を受けたことを考える時に、イエスさまを信じるならば、自然と洗礼を受けたいくなるものです。その気持ちを生徒から引き出して上げましょう。

信仰生活は洗礼で終わるものではありません。生涯を通じてイエス様の喜ばれることを選び取る生活なのです。ですから、イエス様の喜ばれることを選び取る第一歩として、洗礼を受けることは意義があります。生徒たちに、「イエス様が喜ばれることをしたい人」と質問してみるのも良いでしょう。最後に、教会によっては洗礼を受ける年齢に制限がある場合があります。事前に牧師先生や教会のリーダーに聞いておくとよいでしょう。どちらにしても、生徒たちに祈りつつ洗礼を受けることを待ち望む気持ちを持たせることが大切なことです

□結論 イエス様を信じたら、洗礼を受けられるようにお祈りをしましょう。イエス様の喜ばれることをしていきましょう。

□適用（聞き手に最もふさわしい適用が与えられるように祈りましょう）

あなたはイエス様を信じていますか。イエス様はあなたのために十字架にかかれ、死んでよみがえられたのです。それはあなたの罪を赦し、あなたが素晴らしい人生を送ることができるためなのです

洗礼は、罪のお葬式であり、イエス様と一緒に生きる誕生日のようなものです。イエス様はあなたを愛しておられるので、あなたが洗礼を受けて、イエス様と一緒に生きることができることを願っています。洗礼が受けられるようにお祈りをしましょう。もしすでに洗礼を受けたお友達に、受けていないお友達に、洗礼の素晴らしさを伝えてあげましょう。そしてイエス様のお弟子として、イエス様の喜ばれることをしていきましょう。

教師ノート

週課	第三年 第八課 第二週
単元	基本的な教理・3
テーマ	聖化
タイトル	イエス様の姿に変えられる(こころってきれいになるの)
テキスト	II コリント3:16-18
参照箇所	Iヨハネ 1:9、ガラテヤ5:16、ガラテヤ5:22-23、ヨハネ 16:8、Iテサロニケ4:3-4、Iペテロ1:16
暗唱聖句(教会で使用している聖書訳を記入して下さい)	Iヨハネ 1:9 or IIコリント 3:18 or Iテサロニケ4:3
AG 日曜学校教案参照箇所	
□導入	<p>「私たちは、どんな人が好きですか。意地悪な人ですか。やさしい人ですか。イエス様は、どんな人を喜ばれるでしょう。イエス様を信じたならば、私たちの心はどうなるのでしょうか。」</p> <p>☞信仰生活は、イエス様を信じて、洗礼を受けることで終わりではありません。毎日の生活の中で、イエス様の姿に変えられる(聖化)を受け続けるのです。導入では、生徒たちが自分の心がきれいになることをイエス様が願っておられることにスポットを当ててください。</p> <p>「基本的真理に関する宣言」の、聖化の説明 「聖化とは邪悪なものから離れ、神に献身する行為である」。 (参考:「基本的真理に関する宣言」解説 58頁)</p>
□ポイント1 神様は私たちのこころをきれいになりたいと考えておられます	<p>「神様は完全に聖いお方です。1テサロニケ4:3-4には「神のみこころは、あなたがたが聖くなることです。あなたがたが不品行を避け、各自わきまえて、自分のからだを、聖く、また尊く保ち、」とあります。聖い神様は私たちが聖くなることを願っておられます。」</p> <p>☞聖い神様と祈りの交わりをしていますと、聖霊を通じて私たちの罪が明らかになります(ヨハネ 16:8)。それは、例えるならば、暗い部屋の中で電灯をつけるようなものです。光がないうちは、足元に気がつきませんが、明るくなると足元に何があるのかがすべて分るのです。</p> <p>☞毎日聖書を読み、ディボーションをする目的は、神様に従うためだけでなく、自分の罪に気がつき、そこから分離するためでもあります。生徒たちには「部屋の片づけをしないと、ゴミで一杯になるように、罪を告白してきれいにならないと、最後には大変なことになること」を身近な例でもって伝えてください。</p>
□ポイント2 どうしたらこころがきれいになるのでしょうか	<p>「私たちの力で自分のこころをきれいにすることはできません。神様は私たちの罪を赦すだけでなく、心を聖めるためにも、イエス様を私たちのために送ってくださったのです。」</p> <p>「聖霊によって罪が示されたならば、その度に、イエス様の十字架の血の力によって、罪を告白し、赦しを求めるのです。そうすれば、血の代価によって告白した罪が赦され、聖められます(1ヨハネ 1:9)。もう一度確認しますが、赦しも聖めも人間の努力で得られるものではありません。聖霊に罪が示されることも、聖められることも一方的な聖霊の業です。私たちは神様の方法通りにすることによって、聖められる</p>

のです。」

□ポイント3 どのように変えられていくのですか？

「聖め」が人間の業でない以上、イエス様を信じて「罪の赦し」と「聖め」を信じる場所から聖めは始まります。

イエス様を信じた時に、私たちは罪を告白し、赦しを受けました。それで私たちは罪から救われました。しかし私たちの考えが、信じた後にすべてがすぐに変えられるわけではありません。心の中にある悪い考えや悪習慣に気がつかずに隠れている場合、それに気がついた時に、罪を告白して聖めを受けることが必要です。救いは一瞬ですが、聖めは生涯をかけて受けるものなのです。

少しずつではあっても、日ごとに自分の十字架を負って主に従い続けるならば、毎日聖めを体験できます。そして聖霊の力によって「栄光から栄光へと」主の似姿に姿が変えられるのです。これは私たちの意志ではなく、神様の約束ですから、抵抗さえしなければ、かならずイエス様の姿へと聖められるのです。

□結論 イエス様にお祈りをして、毎日少しずつ、きれいなこころに変えられていきましょう

□適用（聞き手に最もふさわしい適用が与えられるように祈りましょう）

イエス様はどんな人が好きですか。（考えてみましょう？）信仰はイエス様を信じて終わりではありません。信じた後にこころがきれいになると、神様のプレゼント（祝福）がたくさん受け取れる人になれるのです。（悪いことをし続けていたら、プレゼントはもらえませんよね）12弟子のヨハネさんは、雷の人（すぐに怒る人）と呼ばれていましたが、年をとってからは愛の人と呼ばれるようになりました。

毎日聖書を読み、お祈りをしましょう。そうすれば、毎日少しずつ、心がきれいになっていきます。自分がかんばるわけではありません。心を変えるのは神様の力です。

あなたの心がきれいになれば、いろいろなものごとにも上手くいきます。イエス様にこころをきれいにしてもらって、神様のプレゼント（祝福）をたくさん受け取れる人になりましょう。

教師ノート

週課	第三年 第八課 第三週
単元	基本的な教理・3
テーマ	いやし
タイトル	いやしは今も起きるのでしょうか
テキスト	マルコ10:46-52
参照箇所	出エジプト 15:26、マタイ 4:23、マタイ 9:35、1ペテロ 2:24、使徒 3:16、ヤコブ 5:14-16
暗唱聖句(教会で使用している聖書訳を記入して下さい)	マタイ8:17 or マルコ16:18b
AG 日曜学校教案参照箇所	

□導入

病気になったら、どうしますか。神様はいろいろな方法でいやしをされます(自然、愛情、お医者さんと薬)みなさんは神様にお祈りすると病気がいやされると知っていますか？

☞アッセンブリー教団の中でも、多くのいやしの証を聞きます(癌や諸々の病気のいやし)
さらに現在はインターネットにより、国内外の情報がすぐに手に入ります。導入に良いと思われる写真、動画があれば、見せることも一案でしょう。

□ポイント1 バルテマイはどのような人ですか？

バルテマイは、目が見えませんでした。そのため普通には働けず、物ごいをするしか出来なかったのです。バルテマイは物ごいの生活ですから、医者にかかって目が治る望みもありません。神様にすがって治していただくしか方法がなかったのです。

バルテマイは、どこかで、「町や村を巡って、会堂で教え、御国の福音を宣べ伝え、あらゆる病気をいやされた…(マタイ 9:25)」というイエス様の話を聞きました。

彼は、後でイエス様のことを「ダビデの子」と叫んでいますから、すでにこの時までにはイエス様を救い主と信じていたようです。そしてイエス様にお願いすれば、必ず目の病気は治ると確信していたのです。

☞バルテマイとは、アラム語で「テマイの子」という意味です。

☞「ダビデの子」とは特別なメシア的称号です (詩篇 72 編、イザヤ 9:7)

□ポイント2 バルテマイはどのようにイエス様にお願いをしましたか？

バルテマイは、イエス様がやってきたと聞くと「ダビデの子のイエス様。私をあわれんでください。」と叫び始めました。しかしまわりの人々は、彼の気持ちは分らずに、うるさいと考えて、バルテマイを黙らせようしました。しかし「この方しかいない」と信じているバルテマイはあきらめずますます大声でイエス様に叫び求めました。

イエス様がバルテマイを呼び出してくださり、彼がイエス様の前に出た時、「わたしに何をしたいのか」というイエス様の問いかけに「目が見えるようになることです」とはっきりと信仰の告白をしました。イエス様はそれを聞いて「あなたの信仰があなたを救ったのです」と言われ、直後に目がいやされたのです。

☞ある牧師先生が、貧しい人のほうが多くいやされるという証をしていました。お金持ちは医者や薬に頼ることができますが、貧しい人々は神様にしか頼ることができません。発展途上国のいやしの集会で、多くのいやしが起きるのも、人間側の信仰によるものであるといえるでしょう。生徒たちにその様な強い信仰を伝えることができれば幸いです。

□ポイント3 目がいやされたバルテマイの信仰とはどんな信仰だったでしょうか

バルテマイは、イエス様のことを聞いて「ダビデの子」と信じていました。すなわち神の子であり救い主という信仰を持っていたのです。いやしは信仰を通じて起こります。救い主によって必ずいやされるという信仰に、神様は働かれるのです。

☞バルテマイが熱心にイエス様を求めると同時に、イエス様に呼び出された時、彼は「上着を脱ぎ捨てて、すぐに立ち上がって」イエス様のところにやってきました。彼にとっての上着とは、物ごいと分る商売道具であると同時に、夜具でもありました。自分の生活に欠かせないものよりも、イエス様を求める気持ちのほうが強かったのが、バルテマイの信仰です。

☞又いやされた後、バルテマイはイエス様について行っています。いやしを受けたらイエス様から離れてしまう信仰ではないのです。救い主イエス様にますます感謝の気持ちをもって従う姿は、神の恵みに感謝し、生涯イエス様と共に歩むクリスチャンの姿といえます。

□結論 病気になったら、救い主イエス様がいやしてくださいと固く信じてお祈りしよう。

いやされたらますます感謝してイエス様についていこう。

□適用（聞き手に最もふさわしい適用が与えられるように祈りましょう）

病気になった時、みんなはどうしますか？ 神様はこの世界を造り、私たちが造られたから、最高のお医者さんです（出エジプト 15:26）。そして、神の子イエス様も病気をいやして下さいます。（マタイ 8:17・I ペテロ 2:24）またイエス様を信じたお弟子さんたちもお祈りするとイエス様の力で病気がいやされました（マルコ 16:18）。だから、イエス様を信じる「ぼくたちわたしたち」がお祈りすると、イエス様は病気をいやして下さるのです。

世界中で、イエス様の名前でお祈りすると、たくさんの病気がいやされています。日本でも、私たちの周りでも祈っていやされることはたくさん起きています（お友達や先生に聞いてみましょう）。神様は、お医者さんや薬を使って病気を治すこともされますが、お祈りすることで病気をいやされることもたくさんあります。だからもし自分やお友達が病気になったら、まず最初に神様を信じてお祈りをしましょう。神様はかならず素晴らしいことをして下さいます。

教師ノート

週課	第三年 第八課 第四週
単元	基本的な教理・3
テーマ	礼拝
タイトル	礼拝とは何でしょうか
テキスト	ローマ12:1-2
参照箇所	創世記 1:27、ヨハネ1:12、ヨハネ 4:22-26、ローマ1:21、ローマ8:15、 ローマ12:1-2、ヘブル 13:15-16
暗唱聖句(教会で使用している聖書訳を記入して下さい)	ローマ12:1b or ヨハネ4:24
AG 日曜学校教案参照箇所 (リンクできます)	
<p>□導入</p> <p>「学校に行った時、あなたのことが大好きなお友達が、喜んで待っていてくれたら、うれしいですね。神様はあなたのことをその様に、いつも見ておられます。礼拝の時や毎日の生活で、神様とどのようにお祈りし、お交わりしたらよいかを考えてみましょう。」</p> <p>☞礼拝会は日曜日に行われますが、礼拝とは毎日の神様との交わりであることを生徒たちに伝えましょう。</p> <p>□ポイント1 日曜日にどのような気持ちで教会にくることを、神様は喜ばれるのでしょうか？</p> <p>あなたのことを、大好きで待っていてくれる人がいたらうれしいように、神様はあなたのことが大好きで、いつも見ておられ助けて下さいます。ですからそんな神様が大好きな人を神様は喜ばれるのです。大好きな人のところには、どんなことがあっても行きたいですね。神様とお会いする礼拝会(日曜日)には、その様な気持ちで出かけることを神様は喜んでくださるのです。</p> <p>☞もし礼拝会の具体的な話になったならば、「用事があっても上手く調整をして、礼拝の時間を優先する」等、優先順位を子供たちに分るようにお話ください。しかしまず教師自身が、その様に生き、神様との関係を持つことが大切です。そうすれば、形式ではない相応しい伝え方ができるでしょう。</p> <p>□ポイント2 神様への賛美はどのようにしたらよいのですか</p> <p>「心から喜んで賛美を歌うことを、神様は喜ばれます。なぜなら「人はうわべを見るが、主は心を見る。(1サムエル16:7)」とあるように、神様は私たちの心を見ておられるからです。ですから礼拝の賛美は、真心から感謝と喜びをもって神様に歌いましょう。」</p> <p>☞低学年の生徒たちには、できるだけ単純に「神様を喜んで賛美すること」と伝えましょう。しかし高学年の生徒たちには、以下にあるような「いけにえとしての賛美」を伝え、喜ばれる賛美をすることをチャレンジしてみましょう。</p> <p>「しかしもし、自分の心に悪いものがあつたら、神様にその罪を告白して赦していただきましょう。悪いものをそのままにしておくことを神様は願われません。ヘブル13:15には「私たちはキリストを通して、賛美のいけにえ、すなわち御名をたたえるくちびるの果実を、神に絶えずささげようではありませんか」とあるように、賛美はいけにえでもあるのです。いけにえは聖いものがふさわしいからです。」</p>	

☞旧約では罪のためにいけにえとして、持っている財に応じて羊や鳩や小麦粉(レビ記5章)を捧げなければなりません。いけにえは、犠牲です。新約時代にはイエス様の犠牲によって、動物等のいけにえを捧げる必要はなくなりましたが、私たちが、感謝をして捧げる賛美が「いけにえ」と書かれているのです(ヘブル13:15)。

☞ですから、気分が良いときも賛美をしますが、調子が悪かったり気分が乗らないときがあっても、神様に賛美し感謝を捧げることが大切です。その様に賛美を捧げるうちに、心が満たされ、心からの賛美を捧げることができるように神様が私たちに満たして下さるのです。

□ポイント3 毎日の生活で、神様にどのような賛美や礼拝をすることが喜ばれるのでしょうか

礼拝会や賛美を歌う時間だけでなく、神様はいつも私たちの心を見ておられるので、神様は毎日心からの賛美や礼拝をすることを願っておられます。また神様はいつも私たちを助けようとされているので、小さなことでも神様にお祈りすることを願っておられます。

ローマ12:1の「神に受け入れられる、聖い、生きた供え物」とは毎日の生活の中で捧げられるものなのです。それこそが霊的な礼拝であるといえます。そして神様と交わっていく中で、「心を新たにして自分を変えていただき(新共同訳)」何が神の喜ばれる御心かますます分るようになります。そうしてそれを実行することが、毎日神様と交わる「実」になるのです。(具体的な内容はローマ12:3-21までを読んでください)

□結論 礼拝とは神様との交わりです。毎日神様に心からの礼拝を捧げ、良いことを選びましょう。

□適用 (聞き手に最もふさわしい適用が与えられるように祈りましょう)

お父さんやお母さんが子供と話しをするように、天の神様はわたしたちを子供として交わりを持つようにつくられました。ですから神様はわたしたち一人一人と毎日交わりを持つことを願っておられます。日曜の礼拝は皆が集まる日ですから、神様は特別な恵みを準備してくださっています。期待して礼拝に来ましょう。

また賛美も早く歌を覚えてしまいましょう。そして神様が聞いていらっしゃると思いながら、口先ではなく心から歌うならば神様が喜ばれる素晴らしい賛美になります。

毎日神様とお祈りすることがまだ良く分らないお友達がいたら、神様とお祈りし続ける素晴らしさ、祈りを聞いてもらえたお証などを話してあげましょう。また、まだディボーションをしていないお友達は、これをきっかけにはじめてみましょう。きっと素晴らしい神様との出会いがあることでしょう。

教師ノート

週課	第三年 第八課 第五週
単元	基本的な教理・3
テーマ	再臨
タイトル	再臨とは何でしょうか
テキスト	マタイ24:3-14
参照箇所	使徒1:11、ヘブル9:28、マタイ24:3-14、マタイ25:31-46、マルコ13:32、 Iテサロニケ4:13-17、5:1-11
暗唱聖句(教会で使用している聖書訳を記入して下さい)	ヨハネ14:3
AG 日曜学校教案参照箇所	
<p>□導入</p> <p>約束を守ってくれない人は時々いますが、イエス様は必ず約束を守ってくださる方です。イエス様は、お弟子さんたちに、世の終わりにもう一度来られること(再臨)を約束されました。</p> <p>☞再臨はクリスチャンにとって大きな希望です。それは救いの完成であると同時に、私たち(教会)がイエス様の花嫁としてイエス様に迎えられるからです。</p> <p>☞導入ではイエス様がもう一度来てくださる望みを、感動をもって伝え下さい。</p> <p>□ポイント1 イエス様が再び来られるのは聖書の約束です</p> <p>イエス様は、ヨハネ14:1-3で「…あなたがたのために、わたしは場所を備えに行くのです。わたしが行って、あなたがたに場所を備えたら、また来て、あなたがたをわたしのもとに迎えます。…」とおっしゃいました。イエス様は十字架にかかれ三日目によみがえると言われ、その様になされたように、再臨も約束通りなさいます。また使徒1:11には天使の証言が書かれていますし、イエス様の弟子たちも再臨の約束を信じていました(ヘブル9:28)。そして聖書にはイエス様を信じる人々を迎えに来てくださると書かれています。(Iテサロニケ4:13-17)</p> <p>□ポイント2 イエスさまが来られる前にはいろんなことが起こります</p> <p>イエス様が来られる終わりのに時代には、「にせキリスト」「にせ預言者」が現われて、多くの人が混乱させられると書かれています(マタイ24:5, 11, 24)</p> <p>戦争が起こり、民族や国どうしの争いがあると書かれています。又ききんや地震が起こるとも書かれています(マタイ24:6-7)</p> <p>そしてイエス様の福音が全世界に宣べ伝えられ、すべての国民に証しされた後、終わりの日が来ると書かれています(マタイ24:14)</p> <p>☞偽メシア…統一協会の文鮮明やオウム真理教の麻原彰晃も「キリスト宣言」をしている。</p>	

☞19世紀は、また交通・通信の発達により、そしてウェスレー、エドワーズ、スポルジョン、ムーディなどの信仰復興運動によって、「宣教の世紀」と呼ばれている。20世紀はペンテコステ運動も加わり、ますます宣教が拡大し現在に至っている。又コンピューターにより翻訳作業が進められ、今まで以上のスピードで聖書の言葉が多くの言語に翻訳されている。通信もインターネットを通じて飛躍的に進んでいるのが現在の状況である。

□ポイント3 私たちはどうしたらよいのですか？

イエス様は「再臨の時は天の父だけが知っておられる(マルコ14:32)」とおっしゃっています。ですから、いつか私たちは分かりません。「この日が再臨である」と明言する団体は危険です) ですから、私たちはいつイエス様が来られてもよいように、準備し、神様に喜ばれる生活を心がけることが大切なことです。

再臨はテストのようなものです。イエス様が前もって再臨があると語ってくださったことは感謝なことです。なぜならテスト(再臨)があると分っていれば準備ができるからです。

パウロも「義の栄冠が私のために用意されている(Ⅱテモテ4:8)」と語っています。私たちも、自分の道を歩みつつ、イエス様を信じて、いつも待ち望むことが大切です。

□結論 イエス様は約束どおり必ず帰って来られます。楽しみにしましょう。

□適用 (聞き手に最もふさわしい適用が与えられるように祈りましょう)

イエス様は必ず約束を守ってくださるお方です。イエス様は、場所を備えたらもう一度来る(再臨する)と約束されました(ヨハネ 14:1-3)。イエス様を信じていればかならず天国に入ることができます。ですからイエス様を信じ続けることが神様の願いです。もし、まだ家族やお友達でイエス様を信じていない人がいたら、イエス様のことをお話してあげましょう

再臨は花婿であるイエスさまとの結婚式と聖書ではたとえられています。特に花嫁は結婚式のために楽しみに準備しますよね。私たちもいつでもイエス様とお会いできるように準備して歩みましょう。